

自序

医政発（厚生労働省医政局長 0430 第 1 号、平成 22 年 4 月 30 日）「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」の通達は各医療スタッフの業務拡大にも連繫しているが、医師による包括的指示を活用して、具体的な業務要項は各医療スタッフの専門性に委ねて、医療スタッフ間の連携・補完を一層進める必要が重要であるとされています。

特に診療放射線技師の「読影の補助」の解釈では多くのご意見を耳にしますが、私たちは読影の補助と画像撮像（撮影）技術の向上は、車の両輪であると固く信ずるものです。いずれか一方のみが優れ、または劣るということはなく、両者は平衡して発展するものであると思っており、この 2 つがバランス良く発展することこそが、質の高い医療の実践に直結しているものと確信しております。

昨今盛んに開催されている「画像診断における読影の補助」に関する勉強会、研究会、講習会などの役割は、ますますその重要性が増してきているものと実感しております。しかし、その一方で最新科学の IT には強い関心を示し熱中するが、基本である身体の構造（解剖学）、仕組みと機能（解剖生理学）に対する融合力・統合的な把握（画像解剖学）には学問的に観察が劣るのではないかと危惧することがあります。

今回私たちは、画像読影に際して最も基本となる「画像解剖学」の執筆を志し、身近にある臨床画像の解剖像を総合的に集約したいと考え、画像解剖に直接的に関連する組織像、日常的に良く遭遇する臨床画像で解剖学的に描出が困難な部位の模式図、解剖画像のみで機能的要素の理解が困難と思われる項には生理学的概要、さらに日常診療でよく遭遇する代表的な症例の記述などを「画像解剖」との関連性を示す目的で列挙いたしました。

最初に基本となる「正常臨床画像」と、緒章として「解剖学概念と細胞・組織」を中心に記述し、「第 1 章 運動器系」、「第 2 章 循環器系」、「第 3 章 呼吸器系」、「第 4 章 消化器系」、「第 5 章 泌尿器系」、「第 6 章 生殖器系」、「第 7 章 乳房」、「第 8 章 内分泌系」、「第 9 章 神経系」、「第 10 章 感覚器系」として、日常診療で得られる臨床画像を基本にして執筆いたしました。

私たちは「診療画像検査法」として CT、MR、US、核医学、X 線撮影などをシリーズで刊行してまいりました。今回執筆の本書はあくまでも「画像解剖学」の手引書として記述いたしました。診療放射線技師養成校の学生諸氏、さらに診療放射線技師として日常忘れがちになる解剖への手近な参考書としてご活用願えれば幸甚に存じます。加えて画像診断への読影補助と患者様方への説明・相談での参考資料の一助になれば幸いと存じます。なお、本書は画像解剖を主として記述しておりますので詳細な人体解剖につきましては成書をご参照くだされば幸いです。

最後に、執筆に際し叱咤激励を賜りました指導医の先生、多くの医療施設での院長先生を初めとした臨床医師、さらに執筆を快く承諾しご協力願いました診療放射線技師の皆様、制作にご尽力をいただきました医療科学社に深く感謝いたします。

また、推薦の辞を賜りました公益社団法人 日本診療放射線技師会・中澤靖夫 会長に深甚よりお礼申し上げます。

2014 年 新春

著者代表 金森 勇雄
藤野 明俊
丹羽 政美